

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

強度近視性網脈絡膜萎縮に関する調査研究

研究分担者 東京医科歯科大学医学部・眼科・教授 大野 京子
九州大学医学部・眼科・教授 園田康平
京都大学医学部・眼科・教授 辻川明孝

研究要旨：病的近視の脈絡膜新生血管に対し、その診断、治療指針に対する診療ガイドラインを確立する。

A. 研究目的

病的近視は特に東アジア諸国において失明の主たる原因である。病的近視による失明は眼球変形により惹起される様々な黄斑部網膜病変および視神経病変による。中でも黄斑部に生じる近視性脈絡膜新生血管（近視性 CNV）は、病的近視患者の中心視力低下の原因として最も高頻度であり、失明を減少するために、近視性 CNV を的確に診断、治療するガイドラインが必要である。そこで今回、東京医科歯科大学眼科強度近視外来におけるデータをもとに、その治療成績を含め、診療ガイドラインを確立する。

B. 方法

東京医科歯科大学眼科強度近視外来には国内外から約 6000 名の患者が登録されており、世界最大の診療拠点である。これらの患者の中から、近視性 CNV を合併した症例を抽出し、その自然予後について解析した。さらに診断の方法として、眼底所見、光干渉断層計所見、眼底自発蛍光、フルオレセイン蛍光眼底造影、ICG 蛍光眼底造影、OCT angiography の有効性について検討した。また、治療を行った症例に対しては、治療薬の内容、治療回数、治療前後の視力変化、治療前後の CNV サイズの変化、近視性 CNV の長期合併症である CNV 関連黄斑部萎縮の発生頻度と大きさについて検討した。

（倫理面への配慮）

本研究は既存のデータの後ろ向き解析研究として施行した。なお本研究計画については、東京医科歯科大学倫理委員会の承認を得て行い、患者への周知はポスター掲示による opt out を行った。

C. 結果

近視性 CNV そのものの診断においては、矯正視力の低下などの自覚症状に加え、眼底所見による出血の有無、血管新生膜の確認、に加え、OCT による網膜下隆起病巣の描出、FAG による化傾向病変が重要であった。また OCT angiography では明瞭な新生血管網を描出でき、特に、単純型黄斑部出血との鑑別に有用であった。近視性 CNV では小型の CNV が多く、特に中心窩外に生じる場合には通常のクロススキャンの OCT では見逃されることが多いため、FAG も検出に重要な手段であった。

活動性の判断においては、OCT ではしばしば漿液性網膜剥離や網膜浮腫などの滲出性変化を明らかではない場合もあり、FAG 造影後期のわずかな蛍光漏出が、活動性を示す唯一のサインであることも多かった。

D. 考案

長期経過データおよび OCT angiography, swept-source OCT、眼底造影などを用いて、近視性 CNV を確実に診断し、抗 VEGF 療法の診療ガイドラインを確立した。指針の確立後には、実際の症例にあてはめてその有用性をさらに検討していきたい。

E. 結論

強度近視外来での長期データおよび最新の画像診断結果に基づき、近視性 CNV の診療ガイドラインを作成した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Ohno-Matsui K, Ikuno Y, Lai TYY, Gemmy Cheung CM. Diagnosis and treatment guideline for myopic choroidal neovascularization due to pathologic myopia. Prog Retin Eye Res. 2018 Mar;63:92-106

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

